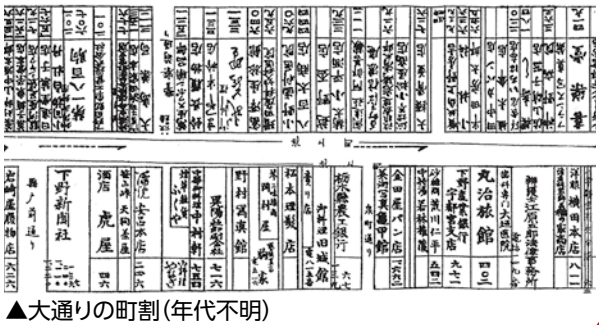

▲大通りの町割（年代不明）

◀戦前の大通り（個人蔵）

まち紀行

池上町（いけがみちょう）

現在の池上町・泉町の一部辺り

古いまちの呼び名と
こぼれ話を紹介します

池上町
小野　栄司さん

かつて宇都宮の中心部は池辺郷（いけのべごう）と呼ばれており、この辺りは、その中心地とみられ、特に鏡ヶ池と呼ばれる池の上にあったことから、池上町になったといわれています。江戸時代は町人町として多くの商家や旅籠屋（はたごや）が軒を並べ、商業の中心地としてにぎわいました。

また、この辺りは草が生い茂り、現在の池上町交差点付近は小高い丘のようになっていました。そこにあった大きな松の木に朝日が当たり輝いて見えたことから「朝日坂」と呼ばれていたようです。

その後鉄道が通り、高台に建っていた東武宇都宮駅の利用者がまず降り立つのが、ここ池上町でしたので、多くの小売店やタクシー会社などがありました。

夕方になると、料亭や旅館から三味線の音が聞こえたり、隣や向かいの家同士で夕食のおかずの差し入れをしたりするなど、生活の匂いを感じる町だったことを懐かしく思い出します。

時代が移り変わるつれ、池上町から郊外へ移り住む人が続き、今では住民が少なくなってしまいました。

しかし、自治会などで集まる機会には、皆で、町の歴史を次の代へ伝えることや、かつてのにぎわいを取り戻すことを話しています。

はつらつ宮っこ

今、輝いている市民

描けていた成功のイメージ ライバルはいつも自分自身

宇都宮中央女子高等学校
岸本　梨沙さん

8月に千葉県で開催された全国高校総体の競泳女子、そして9月に長崎県で開催された国民体育大会競泳少年女子Aのいずれも50メートル自由形で、見事に優勝した岸本梨沙さん。

中学校時代には50メートルと100メートルで全国大会を連覇するなど素晴らしい成績をあげ、順風満帆に見える岸本さんですが、「中学3年生のときに出した50メートル26秒07の自己ベストをどうしても超えられない。それが本当に悔しい」と話します。中学生時代から一転、高校1年生の時は大会でも予選落ちが続き、新しいトレーニング方法を取り入れるなど、試行錯誤を続けました。

努力を重ねた岸本さんの浮上のきっかけとなったのは高校総体直前の関東大会での優勝でした。「久しぶりに優勝して、自信を持てました。それ以来リラックスして泳げるようになりました。高校総体のときは、自分が表彰台の一番上にいるという成功のイメージを持って試合に臨めたんです」と打ち明けてくれました。

今後について「来年は高校生活の締めくくりなので、何としても自己ベストを更新したい。ライバルは自分自身です」と、飛躍を続ける水泳少女の今後にますます注目です。